

埼玉育ちのグローバル人

南米エクアドル滞在記

第2回

「稼ぎと情熱を注ぎ込むカーニバル編」
青年海外協力隊 2016年1次隊 倉澤友子



埼玉県マスコット「コバトン」



青空市場で豚肉を売る様子、町のいたるところで飛び交う水風船や泡スプレー、至近距離から投げつけられる小麦粉や卵、2階の窓から降り注がれる水、通りすがりの車から放たれる水鉄砲…これは子供のいたずらではなく先日のカーニバル(carnaval)の様子です。日本でカーニバルといえばブラジルの派手な衣装を身にまとったパレードを思い浮かべるかもしれませんが、同時期に中南米各地では地域特有のカーニバルが開催されています。

私の任地のボリーバル県サンミゲル市はアンデス山脈のふもと標高 2700m 付近に位置し、トウモロコシ畑と放牧地が広がる山肌へばりついた小さな街です。そんなのどかな田舎町も例外ではなく、本番のひと月以上前からおだやかな街の空気が一変します。あちらこちらからフォルクローレが流れ出してにぎにぎしくなり、最大限のお金と情熱を注ぎこんでパレードで披露する衣装や山車の準備に取りかかります。

各家庭ではモテ (Mote) と呼ばれる大粒の白トウモロコシが添えられた豚肉料理カルネデ フリッターダ (Carne de fritada) を家族で囲み、カルナバルの定番料理であるトウモロコシ粉を使った蒸しパンのチグイ

(Chigui) や、ひょうたんで作ったジャムのドゥルセ デ サンボ (Dolce de Sambo) が食卓を彩ります。これらの食材は自身で育てた家畜や農作物であり、日々の恵みに感謝する時間でもあります。

期間中は約 1 週間学校も仕事も休みになります。連日続くメインストリートでのパレードは数十チームが参加し、広場ではコンサートが大音量で深夜まで続くため普段は静かな町は高揚した空気に包まれます。パレードに参加するチームの中で先住民インディヘナの伝統的な舞踊を披露するチームも多く、部族や住む地域によって異なる曲調や華やかな色調の民族衣装はアンデスの大地と降り注ぐ陽射しによく映えて素晴らしいものです。



パレードで鮮やかな民族衣装を着た女性

さらにいつからか恒例になった水をかける習慣は、泡スプレーや小麦粉・卵など、どんどんエスカレートしているようで、町中を歩くだけでずぶ濡れの粉まみれになることには閉口しますが、この時期ばかりは無礼講のためおおらかな気持ちで楽しむしかありません。ただし、ここは平均気温 15 度程度の標高 2700m 近い山間部のため、日中の温かい数時間以外は寒さで震えが止まりません。

大人も子供も全力ではしゃぐ姿は底抜けに陽気で力強く、ひとつの行事に注ぎ込む情熱とエネルギーに圧倒され続けたカーニバルでした。どの国でも年中行事はハレの日であり、それぞれの特色や国民性がギュッと詰まったものだと思います。



勇壮なダンスを披露する男性たち